

官制リボルーション

官制リボルーション「低速自動運転社会」：「水陸両用低速自動運転車」&「木造人工島のブルーカーボン」を世界中に展開することにより、現状世界が抱えているあらゆる課題を全て解決又は緩和をし、同時に 2040 年頃までには、カーボンニュートラルを達成する。

日本は GDP2 位から 4 位・国際競争力 1 位から 38 位と戦後未曾有の低迷期に差し掛かっており、ニューディール政策に倣い、国策（国債：MMT 資金）でのリボルーション「水陸両用低速自動運転車」と「木造人工島のブルーカーボン」の同時普及を目論見、内閣府・総務省・経産省・国交省及び全国の都道府県様に声だしをしております。

前記リボルーションの波に乗り、自動車のみならず小型船も AI 技術を駆使した低速自動運転化と水陸両用化が必要と考え、提案します。

失われた 30 年の根本要因は、中央にて効率よく、各種の課題を共通課題として解決すべきところ、あたかも地域ごとに異なる課題があるかのごとき理論展開をし、中央政府は補助金をバラマキ、（共通課題なのに）地方ごとに課題解決をしてきたところです。例として、再エネ化、デジタル化、自動運転化等（＝質から量（あちこちでやる）への転換が行われてきた・・・）

特に、成熟社会における難度の高い技術開発、とりわけ AI 技術が主流の昨今では、AI 技術の特許が取得できる人材が皆無の日本では、ほとんど何も進んでおらず（「失われた 30 年の継続中」）、国際競争力がどんどん低下をしています。（1 位から、30 年で 38 位・・・まだ下がる・・・）

これからの（失われた 30 年を取り戻すための）課題解決は、中央（あるいは国際連携）で、AI 技術の特許が取得できる人材等を高給で集めて、高度で質の高い技術開発が必要であり、「低速自動運転社会構築」の一環として「水陸両用低速自動運転車」を「バリウスリンク会議」で開発する必要があります。

（＝量から質（中央又は国際連携でやる）への転換が必要とされている）

経産省・国交省の今年6月のDX戦略の見直しの内容（考え方）を確認したところ、見直しの内容・方針に対して、適合するよう技術的内容を具現化すると、以下の URL の ANNEX - 13 のような感じになります。

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_4bdb9ae07b9346f5a2c484551695cf59.pdf

特に、DX戦略の見直しの内容には「日本の勝ち筋の検討」が盛り込まれており、「水陸両用の低速自動運転車」（失われた30年を取り戻し活性化する施策）が必要と考えております。（上記URLのANNEX - 12をご参照下さい。）

「モビリティDX戦略」 2025年のアップデート

全国各地で行ったレベル4の実証実験の成果を踏まえ、低速自動運転社会を構築する。

2025年6月9日

経済産業省 製造産業局 自動車課 モビリティDX室

国土交通省 物流・自動車局 技術・環境政策課

経産省・国交省の最新版(25年6月)のDX戦略を具現化すると以下になる。

「マイアバター搭載」

SDV (Software Defined Vehicle) とは、ユーザーを主体に考え、車に乗りながらも外との緊密なコミュニケーションがとれることなので、「マイアバター」を搭載する。

● 戦略の更なる強化を進めるに当たっては、SDV関連技術動向や地政学上のリスク、主要海外プレイヤー動向等を踏まえ、

・ 先行する海外勢に比肩すべく、SDVに関する協調領域の拡大や官民での取組の加速

「バリウスリンク会議」

・ 国際環境の変化に対応した強靱なSCの再構築やSDV化に対応した産業構造構築

「低速自動運転社会構築」

・ グローバルなSDV市場創出

等の観点から、日本の「勝ち筋」を検討、関連政策の具体化を図る。

「水陸両用低速自動運転車」

● これらを通じ、SDVの日系グローバルシェア3割という目標達成の着実な実現、引いてはモビリティサービスも含めた市場獲得・競争力強化を目指す。

ありとあらゆる課題が同時に解決: GDP2位・国際競争力1位

(↑本見直しは、具現化すると、まさに官制リボルーションの内容でした)

「水陸両用の低速自動運転車」：海上では時速18km（陸上の3倍）で、直進できるため、海を隔てた島へのアクセスが非常によくなり、無人島を含めた島への移住者が急増すると考えています。

安全往来が24時間いつでもでき、誰でもが釣りが出来、世界中の誰もが欲しくなるものになります。→世界市場を日韓台米で独占する。

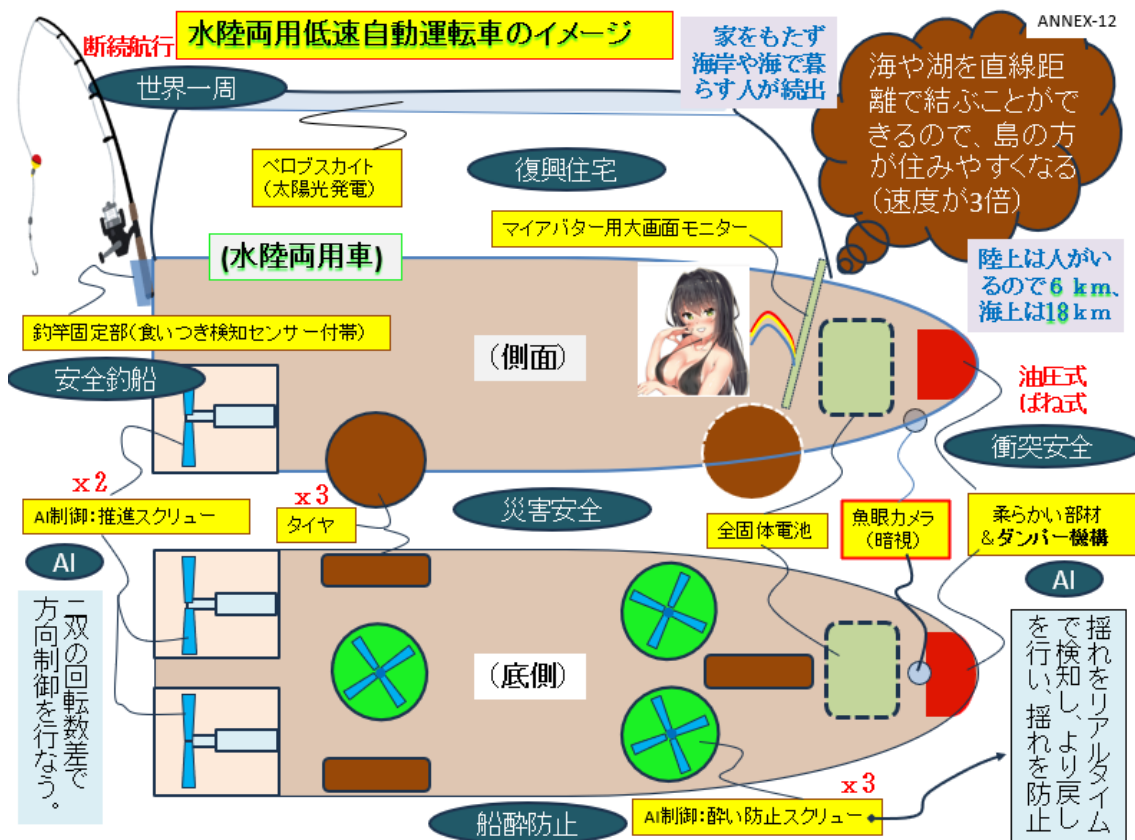
基本仕様が水陸両用なのは、地震津波大国ならではの施策で、台風だけでなく、線状降水帯がどこでも発生する可能性があり、災害時の死亡者0を目指し、余震・再津波にびくともしない、仮設住宅・当面の復興住宅としても使える水陸両用が必須であると考えています。

官制リボルーションとして、日本（及び韓国、台湾、米国にて、各国）のMMT資金にて、「水陸両用低速自動運転車」を、病人、障害者・高齢者等移動に他人の力を必要とする人達から優先的に支給し、その後は自治体ごとに独自のルールを設定して支給する方向ですが、支給率が50%程度までいけば＝5千万台（#）提供した日本の車産業はそれだけで潤い、加えて輸出が活発化し、また「低速自動運転社会構築」による恩恵によって、多くの産業が活性化し、大幅増収増で、消費税減税や国債償還が進むと考えています。

「バリウスリンク会議の必要性」

日本が先行していた技術でも、EV・PHEV、全固体電池、ペロブスカイトは、ドローンと同様にコスト&性能の両面にて、高い AI 技術を持つ「ダーク工場」の中国には勝てなくなると予測をしています。

彼らに勝つためには、従来のやり方：一企業又は少数の企業が協力し合う程度の進め方では、限られたリソースであり、企業都合：企業が提供しやすいものになり、ユーザーが本当に欲しいものにならず、国際競争力のあるものにならず、ユーザーが長期的に欲しいものを考え、充足するために必要な企業群を（後付けで）集める必要があります。



まずは、「低速自動運転社会構築」の準備としまして、上記のURLの他に、以下の3つのURLに関して、関係各位様にて定期的な勉強会を開き、知識を深めていただけますよう、切にお願い致します。（要請があれば講師として伺います、10時～12時：プレゼン／13時～15時：質疑応答&デスカッション）

「DX戦略」SDV化に対応した産業構造構築＝「低速自動運転社会」構築

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_4bdb9ae07b9346f5a2c484551695cf59.pdf

「DX戦略」協議領域の拡大や官民での取組みの加速＝「バリウスリンク会議」

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_c6a8773b09bc46aabfebe1c7f5fd1c6e.pdf

「DX戦略」先行する海外勢に比肩すべくSDV技術強化＝「マイアバター」構築

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_dedc0ca1807246ff95f094250203a489.pdf

小型船も、AI 化により、船酔い防止機構や舵なし（二双のスクリューの回転数バランスで舵取りを行う。）タイプが普及すると考えていますが、水陸両用や低速自動運転と人が運転するモード切替船の普及に加えて、魚眼レンズと超高感度カラーカメラを搭載し、AI 電子ズーム機能と AI 画像補正機能により、魚群探知が可能になり、また魚の生態観察や鑑賞が可能になると考えています。

＜水陸両用低速自動運転車のメリット＞

1. 大津波・大洪水に強い。余震にも強く、仮設住宅・復興住宅代替となる。
 2. ブルーカーボンの育成等、海での作業がある場合、陸上で積んだ準備荷物の船への乗せ換えの作業がない。（人の船への乗り換えもない）
 3. 収穫された海産物の車への乗せ換えがない（今後の小型船も水陸両用へ）
 4. 台風や嵐での退避が陸上の車庫等で可能になる。
 5. 足腰の悪い高齢者や障害者でも、池・湖・海での魚釣りが気軽にできる。
 6. AI 船酔い防止機構で、酔わずに安全に航行を楽しむことができる
 7. AI 魚眼レンズ画像補正機能で、リアル感のある 180 度の映像が見える。
- （AI 自動ズーム機構&超高感度カラーカメラで夜間でも魚類の鮮明な画像）

「木造人工島のブルーカーボン」

（ブルーカーボン特許情報：https://ipforce.jp/patent-jp-P_B1-7675467）



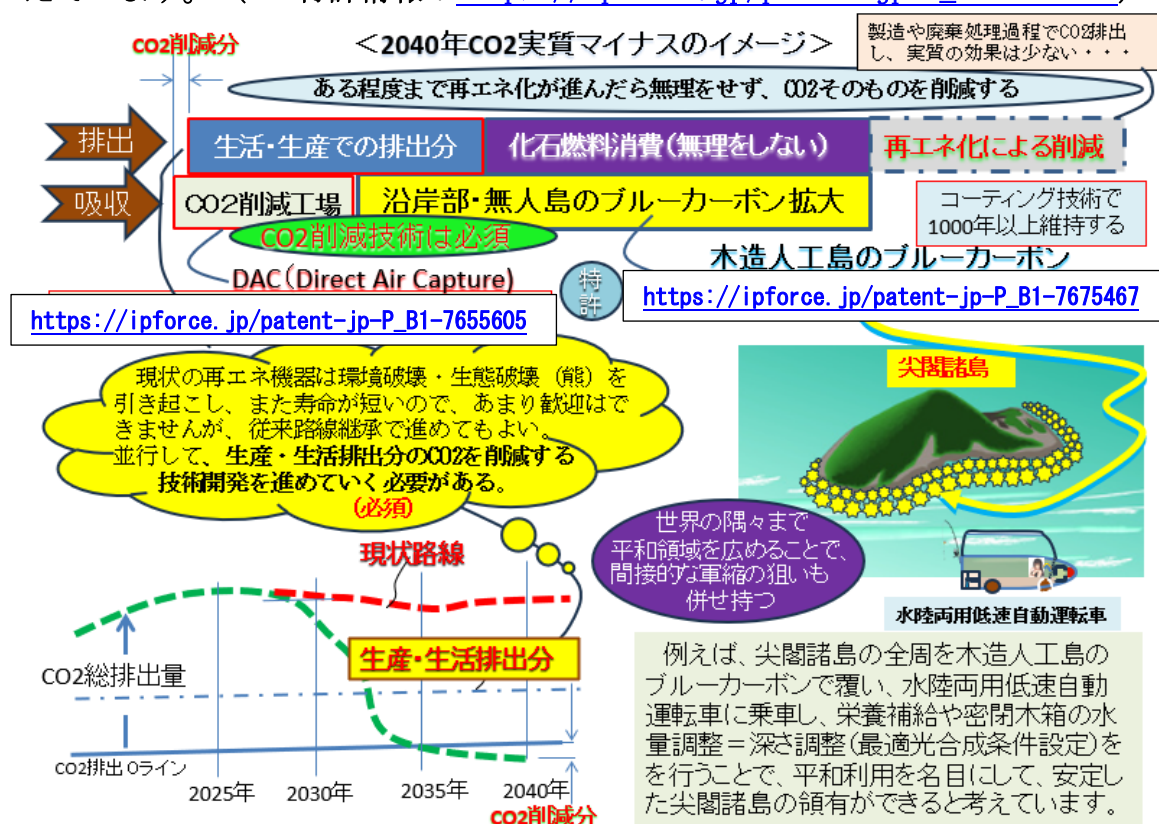
ブルーカーボンとは、海洋生物の働きによって海洋環境に吸収・貯留されている炭素のことです。人間活動によるCO2の排出量は炭素換算で年間約94億t、陸上の森林などの植物は約19億t吸収し、海洋全体で約25億tを吸収していますので、まだイメージの段階ですが、おそらくですが、世界中の可能な海岸沿いや無人島等に「木造人工島のブルーカーボン」を展開すれば、カーボンニュートラルが達成可能と考えています。

海上や湖上に浮遊型の木造人工島を浮かべ、該木造人工島の海中又は水中部分に、木枠を設定し、その上にシートを設定し、さらにその上に培養土を設定し、該培養土には海藻又は淡水藻を植える。

また該木造人工島には、浮力を保つための複数の密閉木箱を設定し、さらに該密閉木箱の上側が海上に露出するように設定し、該密閉木箱の上側には蓋つきのハッチを設定し、該ハッチから該密閉木箱内部への、ポンプによる水の注入及び排出を行えるようにし、該培養土及び海藻又は淡水藻の育成の深さ調整を可能とする。

さらに、該木造人工島の全周囲にはネットを設定し、魚から藻を守るようにする。

木造人工島のブルーカーボンを世界中の可能な沿岸部や無人島の全周に展開することで、下図のように2040年頃にはカーボンニュートラルが達成可能と考えています。（DAC特許情報：https://ipforce.jp/patent-jp-P_B1-7655605）



水陸両用低速自動運転車は、世界中の海岸沿い及び無人島でのブルーカーボン(海藻)の育成(深さ調整・栄養補給)に貢献すると考えています。